

## 日本経営システム学会全国研究発表大会にみる研究の動向

堀江則之

筑波技術大学 保健科学部 情報システム学科

**要旨**：本稿では、第58回日本経営システム学会全国研究発表大会で発表された講演論文を整理することによって、経営システム関係の研究の動向を明らかにした。具体的には、研究目的と研究アプローチ方法を取り上げて、最近の研究発表の特徴を考察した結果を報告する。

**キーワード**：日本経営システム学会、研究動向

### 1. はじめに

最新の研究動向を把握することは、今後の研究を考える上で、大変意義があると考えられる。そこで、本稿では、筆者の所属する日本経営システム学会を取り上げ、2017年5月27日(土)、28日(日)に東京経済大学で開催され、第58回日本経営システム学会全国研究発表大会で発表された自由論題の講演論文を整理し、経営システム関係の研究の動向を考察する。

### 2. 調査概要

70件の講演論文について、2項目(研究目的、研究アプローチ方法)について整理し、考察する[1]。なお、表2、3に今回整理した講演論文をそれぞれ示す。

#### 2.1 研究目的

表2、3に示している研究目的について、特徴を分かりやすくするため、便宜的にグループ分けした。表1に分類した結果を示す。

表1 研究目的の分類

意識調査	2
影響分析	7
概念の考察	12
関係性の考察	3
システム構築開発	2
手法の提案	5
事例分析	8
比較	5
フレームワークの提案	4
分析モデルの提案	9
その他	14
合計	71

\*複数にまたがる研究目的が1件ある。

その他を除き、研究目的の中で最も多かったものは「概念の考察」で12件であった。経営学分野を対象としている学会であるので、概念や理論の考察から論考を展開する研究が多かった。

次いで多かったのが「分析モデルの提案」で9件であった。先行研究の分析モデルの不十分な点について、改善・改良を目的とした研究が見受けられた。

3番目に多かったのは「事例分析」で8件であった。研究対象企業等の明らかにしたい課題、仮説について明らかにすることを試みていた。

これらに続くのが、「影響分析」7件、「手法の提案」5件、同じく「比較」5件であった。「影響分析」は、研究対象について、「与える影響」、「どのような影響があるか」、「どのような影響がもたらされるのか」など、様々な角度から「影響」について研究が行われていた。

#### 2.2 研究アプローチ方法

前節で示した、研究目的件数上位の研究アプローチ方法を概観すると、「概念の考察」では、文献の整理を基に論考を進める研究が多かった。

「分析モデルの提案」では、様々なデータ(ビール・発泡酒の全国家消費データ、気象データ、アンケート調査データ、数値実験、停留所毎乗客客数データなど)を活用して、提案した分析モデルの有効性を検証しているアプローチが数多く見られた。

### 3. まとめ

本稿では、日本経営システム学会全国研究発表大会で発表された自由論題の講演論文について、研究目的と研究アプローチ方法を取り上げ、最近の研究発表の特徴を考察した。

表2 講演論文 (その1)

	研究タイトル	筆者	研究目的	研究対象	研究のアプローチ方法
1	山梨県における市町村合併と2段階の商工会合併アプローチ	金子勝一, 山下洋史	「2段階の商工会合併アプローチ」と「商工会合併と市町村への帰属意識との時間的連動性」概念を示唆する。	市町村合併と商工会合併	ヒアリング調査
2	2値型 k principal pointsによる日本のBRTの分類	山下洋史, 権善喜, 金子勝一, 他.	2値型代表点分析の簡易的アルゴリズムを提案し, BRTの特徴を端的に表す少数個の代表点を用いて日本のBRT (バス高速輸送システム) を分類する。そして, 日本のBRTの性格を簡潔な形式 (代表点とセグメント) で記述することを試みる。	BRT (Bus Rapid Transit : バス高速輸送システム)	提案したアルゴリズムにより日本のBRTを分類
3	季節依存性製品の全国需要に関する品目差比較分析モデル	栗原剛, 川中孝章, 山下洋史	複数品目の間で要員を比較することが可能な, 新たな品目差比較分析モデルを提案する。そして, 競合すると思われるビールと発泡酒 (第3のビールを含む) を例に, 数値例による実証分析を行うことで, 提案モデルの妥当性・有効性を検証する。	品目差比較分析モデル (拡張)	新たな品目差比較分析モデルの提案及びビール, 発泡酒の全国家庭消費データと気象データを用いた実証分析
4	「島」の概念的多様性と相模湾の小規模島	山下洋史, 権善喜, 村山誠	島の地理的隔離性という観光客にとっての非日常性と, 交通の利便性という日常性との調和が, 内海の小規模沿岸島における観光優位性を生み出していることを示唆する。	島	文献の整理
5	宮崎市における地方公会計の整備と今後の課題	森田英二	一般的な公会計を採用している地方自治体から宮崎市を対象として, 多くの地方自治体に共通すると考えられる公会計に対する見解と今後の展開について明らかにする。	地方公会計	文献の整理
6	多様な起業プロセスによる産業活性化	難波和秀	「多様な働き方の延長としての副業としての起業ではないが, 明確に将来起業したい意向をもつ社員が副業として起業したい意向を持っている」という先行研究結果に対しての整合性を検証する。	副業としての起業	アンケート調査結果と先行研究のレビューとの整合性を考察
7	ランダムフォレストを用いた企業倒産判別	片桐英樹, 松丸正延	企業倒産判別モデルによる倒産判別と従来モデルとの比較	企業倒産	日経NEEDSデータから計算した財務指標を用いた倒産判別を実施。また, 判別率に関しての従来モデルとの比較。
8	協働的コミュニティにおける人の採用・教育・成長 (一 ネットヨク南国のケース)	山田伊知郎, 塚田修	企業の共働的コミュニティの特徴と当該共働的コミュニティの形成を明らかにする。	協働的コミュニティ	インタビュー調査
9	半導体製造装置の募占に関する一考察 - 募占メカニズムの仮説導出 -	渡辺利幸, 上西啓介, 長野寛之, 他.	半導体製造装置の米欧での募占状態となっているメカニズムの仮説導出	半導体製造装置の市場	文献の整理
10	戦略的提携が創造性に与える影響についての一考察	久納誠司, 小田哲明	提携による成果について具体的な検証を試み, 戦略的提携が企業や技術者の創造性に与える影響を考察する。	特許	特許情報のデータベースを用いた, 共同開発に関わる技術者数及び企業数での層別
11	トップダウン型オープンイノベーション採用企業の特許分析	前川知浩	特許出願の面で社員の意識改革がいかに現れたのかについて発明者を分析し, 検証する。	特許出願	01進前の特許出願と, 01進後の特許出願時期を比較し, 社外発明者の比率を分析
12	新規企画活動のリスク低減に関する研究	難波和秀	先行研究で提案されている普及のシミュレーションを地域観光資源の普及予測に応用し, 普及予測を行うマーケティング手法を検証する。	地域観光資源	調査対象の解決される課題の大きさとして再度その観光資源の場所を訪れたいかについての調査と事例に対しての普及シミュレーションの実施
13	人とロボットの協調職場における要員スケジューリング	谷崎隆士, 新村猛	勤務計画作成手法の提案	要員スケジューリング	勤務計画作成問題をモデル化し, ロボットの台数と満足度の関係について考察。
14	有効特許による成熟期製品の開発手法の研究	泉丙亮	成熟期の製品開発において効率的に改善案を導き出す手法の提案	有効特許に基づく発想手法	学生を3グループ (その内1グループは提案する発想アルゴリズムを利用) に分け, 効率的に改善案を導き出せるか検証。
15	中小企業のサービタイゼーション移行に必要なマネジメントの考察 - 多種少量生産をいかにした価値創造の促進に関する事例研究 -	平田貞代	中小企業におけるサービタイゼーションへの移行に必要なマネジメントについての考察	中小企業のサービタイゼーション	日本の中小企業, 北欧の中小企業を対象に実態調査を実施。
16	地域金融機関の融資リスクマネジメントの岩崎祐子	岩崎祐子	地域金融機関が企業価値やリスクを評価してフォワードルッキングな融資につなげるスキームの提案	意思決定モデル	文献の整理
17	精神科治療における5Sの意義と有用性	松本博隆, 大野高裕	5Sによる精神・変容の意義と治療における有用性について論じる。	精神科治療における5S	文献の整理
18	精神科治療における5S利用の推進	松本博隆, 大野高裕	5Sの精神科治療利用の具現化を試みる。	5Sの精神科治療利用	文献の整理
19	リーダーシップにおける二段階の管理 - 支援モデルを考慮した組織メンバーのモチベーション分析モデル	浅井幹衣, 上原衛, 山下洋史	「リーダーシップにおける二段階の管理 - 支援モデル」という新たなフレームワークを提示し, そのフレームワークを定量的に表現する分析モデルの構築	組織メンバーのモチベーション	愛知県内の企業に対して調査を実施。
20	大学生のボランティア活動における活動の満足と継続の関係についての考察	三村和香, 川北真史	ボランティアの満足の構造把握, 満足と活動継続の関係性を探索的に明らかにする。	ボランティア活動の満足と継続の関係	調査票による調査の実施し, 因子分析, 相関分析, 重回帰分析により分析。
21	事前の倒産不安心理と実際の倒産との関連性に関する研究 - 調査会社に対する紹介件数の分析において -	牧野和彦, 岡崎一浩	噂などから生じる心理状態を定量情報として測定し, これと倒産率との関連性を検討。	事前の倒産不安心理と実際の倒産との関連性	企業で審査や与信管理を担当する担当者に対してのアンケート調査の実施。倒産した英国企業の企業調査レポートを取得し, 信用調査会社に対する照会件数の推移の変化を調査。
22	情報開示がオペレーショナル・アセット特化型J-REITに与える影響	右橋俊毅, 大野高裕	オペレーショナル・アセットにかかる情報開示手法の適正化	情報開示	ヘルスケア施設とホテルの特化型J-REITから銘柄を選定し, 投資口価格のベータ値の比較を実施。
23	Study on effect of inbound open innovation on firm performance in Japan	Xue Wang, Akio Nagahira	R&DフェーズでのインバウンドOIの実施が, NPDプロジェクトの成功にどのように影響するか。	インバウンドOI	OIに関する文献の最近の研究に基づいた概念モデルを開発し, SmartPLS 2.0構造式モデリング (SEM) 統計ソフトウェアでのテスト実施。
24	ブルー・オーシャン戦略の検証 (日本のiPhoneの事例から)	パークレー マッシュュー	iPhoneが本当にブルー・オーシャンを開拓したか否かの検証	iPhone	ブルー・オーシャンの条件とiPhoneの事実との比較
25	J. フロントレイティングと大商グループの経営比較	李泉龍, 岡崎一浩	J. フロントレイティングと大商グループの経営比較	J. フロントレイティングと大商グループ	財務, 経営, SWOT分析などで比較して, 共通点と相違点の明確化。
26	カスタマイズ製品の購入プロセスにおける価値要素の特性	菊地啓太, 湊宣明	カスタマイズ製品の選択プロセスを定量的に解析し, その価値要素を明らかにする。	購入プロセス	インターネットを用いたものに限定し, 食品分野のカスタマイズ製品を調査。選択要素の解析では, 価値分解法を適用。
27	購買チャネルとメディア接点の組み合わせによるマルチチャネル顧客の潜在クラスセグメンテーション	中野晧, 近藤文化	消費者メディア接点と購買チャネル利用を同時に捉えたセグメンテーションの提案	メディア接点と購買チャネル利用	パネル参加者に対してのオンライン調査。収集した調査データに対して主成分分析, 潜在クラス・クラス分析の実施。
28	悪い口コミに対する返信の共通性がサービスの満足度評価に与える影響の分析	小暮美菜, 諸上茂光	動機以外の消費者属性および商材の特性の違いが返信の効果に与える影響を精査する。さらに, 変数間士の関係性について考察する。	悪い口コミに対する返信の共通性	インターネットを用いたアンケート調査の実施。
29	状態空間モデルを用いた研究開発による経済への影響の時系列的検証	河合敏治, 長平彰夫	研究開発がその後の収益の増加に与える影響を状態空間法によりモデル化する。	研究開発による経済への影響	特許出願件数と工業統計の製造品出荷額を用いた, 分析ツールによる分析の実施。
30	コンジョイント分析の回答方法が回答率と部分効用値の推定に及ぼす影響に関する研究	有馬昌宏	回答方式の違いが部分効用値の推定に及ぼす影響についての分析を行う。	回答方式の違いが部分効用値の推定に及ぼす影響	2項選択型, 5段階評価法, 順位付け法による回答データにより部分効用値を推定。
31	看護職者のリスク感性尺度の因子構造と信頼性の検討	相模佐希子, 上原衛, 山下洋史	臨床的に適切な質問項目の選択と尺度の信頼性・妥当性の向上を図るための統計的解析の展開	看護職者のリスク感性尺度	無記名自記式調査の実施。
32	震災復興支援のためのオープンデータを活用したシステム構築	益満漢	震災復興支援のためのオープンデータを活用したシステムの構築	オープンデータを活用したシステム	オープンデータに関する文献等の整理
33	日本経営システム学会に関する研究 - 公開データによる分析と, 会員アンケートからの分析 -	小田哲久	経済経営系学会全体における日本経営システム学会の位置を客観的かつ数量的に分析及び将来の学会運営に役立つ資料の作成	経済経営系学会及び日本経営システム学会	各学会の公式Webサイトによる調査, 日本経営システム学会会員の意識調査
34	共有可能な文献PDFデータベースシステムの開発	林坂弘一郎	共有可能な文献PDFデータベースシステムの開発	文献PDFデータベースシステム	筆者が従来開発した文献PDFデータベースシステムの開発環境の言語の変更及びLaravelフレームワークを利用した新たなデータベースの開発
35	ビッグデータのスマートデータ化に関する研究	山下洋史, 村山誠, 鄭年皓, 他.	2値型Principal Points 解析法によるビッグデータのスマートデータ化	ビッグデータのスマートデータ化	2値型Principal Points 解析法

表3 講演論文 (その2)

	研究タイトル	筆者	研究目的	研究対象	研究のアプローチ方法
36	価格を考慮した魅力的サービスと当たり前サービスの枠組み	権善喜, 山下洋史	価格を考慮した魅力的サービスと当たり前サービスのフレームワークの提案	価格を考慮した魅力的サービスと当たり前サービス	文献の整理
37	大学教育におけるフロー状態のカスタロフィー・モデル	村山賢哉	大学教育におけるフロー状態のカスタロフィー・モデルの提案	大学教育における学習者の学びに対するモチベーション	文献の整理
38	交互最小二乗法を用いた海外進出支援に関するモデル	曾我寛人	海外進出支援組織における支援の強みについてのモデル構築	海外進出支援	アンケート調査によって得たデータによる交互最小二乗法による分析
39	飲食店における地理的コンセプトの外部化戦略に関する分析モデル	権善喜	地理的コンセプトに注目した戦略の効果(飲食店の魅力)を分析するためのモデルの提案	地理的コンセプトに注目した飲食店の戦略の効果	Webアンケート調査による提案モデルの実証分析
40	上司による部下の情報管理行動が部下の組織態度に与える影響に関する信頼の媒介効果—情報コミュニケーションの視点からの組織心理学の構築に向けて—	東海詩帆	信頼の複雑なメカニズムについて情報コミュニケーションの視点と組織心理学の視点の相互関係からのフレームワークの提案	上司による部下個人の情報の管理行動と上司との信頼関係が部下の組織態度に与える影響	文献の整理
41	病院でのQC活動参加における組織的意義の探求的検討(経営理念の浸透, キャリア確立の視点から)	西平守秀	経営学的視点から病院でのQC活動参加に関する組織的意義についての定量的手法を用いた探求	病院でのQC活動参加における組織的意義	アンケート調査(手渡し配布, 回収)
42	雇用の定着性が企業の生産性に与える影響についての考察—多変量解析を用いた情報通信産業の企業別データによる実証研究—	植松隆史, 平田貞代	情報システム開発企業を対象に, 雇用定着性と生産性の関係性について多変量解析を用いて分析した上で, 雇用制度の改良について考察する。	雇用定着性と生産性の関係	5年間の売上高, 経常利益, 従業員数等の平均値のデータを線形回帰分析により分析
43	自治体監査へのCAATs導入に向けた課題整理と解決策に関する研究	丸山恭司	CAATs(コンピュータ支援監査技法)がどの程度実施されているかを民間企業における内部監査と対比することで明らかにする。	コンピュータ支援監査技法	質問紙調査の実施
44	航空旅客運送事業の信用リスクに影響を与える経営指標抽出	永井希依彦, 荒牧輝, 湊宣明	一般に入手可能なデータのみを用いて航空事業のリスク評価を行う。KPI(主要経営指標)の絞り込みを行う。	経営指標抽出	破綻した事業社と存続している事業社のデータを利用して, ロジスティック回帰モデルで分析
45	ホットグループと研究テーマ創出—組織ルーティンがホットグループを育む—	岩崎之男, 名取隆	日本の中堅規模以上の化学系企業のR&D組織における研究テーマ創出とホットグループの関係性について, 研究テーマ創出における「プロセス」, 「研究環境」の両面から検討した。	研究テーマ創出とホットグループの関係性	アンケート調査
46	新規市場技術確立における政府支援の役割の研究	永松陽明, 藤祐司	政府が支援する研究開発の成功要因の解明	新規市場技術確立における政府支援の役割	文献の整理
47	二元代表制における自治体の経営のあり方	本田正美	二元代表制下の自治体の経営のあり方について, 改めて理論的に検討する。	自治体の経営のあり方	文献の整理
48	多様なイノベーション活動における管理技術の可能性—日印の調査結果からの考察—	澤口学	多様なイノベーション活動における管理技術の可能性についての考察	多様なイノベーション活動における管理技術の可能性	日本とインドで開催されたVEカンファレンスの参加者にアンケート調査の実施
49	ドミナント・プラットフォーム製品が隣接する階層のモディティ化に関する考察	加藤和彦	ドミナント・プラットフォーム製品が隣接する階層でコモディティ化が起こる仕組みに関して例証すると共に, 隣接する非ドミナント・プラットフォーム製品の取るべき戦略について考察する。	ドミナント・プラットフォーム製品が隣接する階層でコモディティ化が起こる仕組み	事例分析
50	PROCESSを利用したアシュアランケース記述方法の提案	小林延至, 白坂成功	PROCESS定義を試み, そのPROCESS定義に応じたアシュアランケース記述方法を提案することによって, 業務進捗に応じて目的が変化する業務を保証したことを可視化を考察する。	PROCESSを利用したアシュアランケース記述方法	文献の整理
51	ベンチャー企業によるビジネスエコシステム形成の成功要因に関する事例分析	手塚貞治	日本のベンチャー企業がビジネスエコシステムを形成し, 成長するための成功要因について事例をもとに検証する。	日本のベンチャー企業によるビジネスエコシステムの形成と成長の成功要因	情報システムベンチャー企業による事例分析
52	産学連携を活用したオープンイノベーションに関する考察	田平由弘	産学連携を活用したオープンイノベーションのさらなる普及と発展を目指す。	企業の産学連携の活用要因	事例分析
53	事業部制採用企業の共通資本コストと貢献EVAによる経営管理	藤原大豊	資本コストは個別共通通の択一ではなく, 両方を採用することにより高度な経営管理が可能になることを示す。	経営管理	表計算ソフトで作成したモデルによって撤退及び追加投資の意思決定を想定し, 検証
54	生産スケジュール改善サイクルの納期尺度への効果	椎原正次	納期尺度のひとつである納期遅れ和の改善を考慮する。そして, そう経過時間と納期遅れ和の最小化を目的とした生産スケジュール改善サイクルを開発する。	生産スケジュール改善サイクルの納期尺度への効果	ロットの選択方法を提案し, GAの開発し, 数値実験で提案された生産スケジュール改善サイクルの性能を検証
55	太陽光発電事業経営自動化の試み	浅井達雄	太陽光発電事業について, 発電設備設置後の経営自動化への具体案を提示し, 実際に経営に適用した場合にもたらされる効果について論じる。	太陽光発電事業経営の自動化	筆者が経営する株式会社事例分析
56	ICTを活用した国際交流の実装に関する検討—Skypeを活用した国際交流の国際志向性への影響—	田平由弘, 後藤智	英語教育を始めたばかりの中学生に対してSkypeを用いた国際交流プログラム提供した場合に, どのような影響がもたらされるかについて分析を行う。	ICT技術の英語教育への効果	質問紙調査データをPLS-SEM(SmartPLS)で分析
57	おもてなし経営企業選のビジネス事例に基づく数量化分析とクラスター分析	片岡隆之, 高山智行, 谷崎隆士	経済産業省が選定した「おもてなし経営企業選」のビジネス事例に基づく数量化分析とクラスター分析	業種と地域の関連性	選出企業・団体について数量化Ⅲ類とクラスター分析で分析
58	出版産業におけるデジタル化の影響分析	永松陽明, 柳田義雄	デジタル化の発展などの要因による出版産業への影響として, 特に市場の落ち込みの分析を試みる。	出版産業におけるデジタル化の影響	労働力調査長期時系列データを重回帰分析で分析
59	わが国の地方都市における産業集積に関する一考察—熊本県人吉球磨地方の焼酎産業の現状と課題—	梶所哲郎	熊本県人吉球磨地方の焼酎産業における産業集積の概観, 及び産業クラスターへの可能性についての考察を行う。	焼酎産業における産業集積	文献の整理
60	IT利活用を背景とした中小製造業の再生に関する事例研究	三浦達也	IT利活用を背景とした中小製造業の再生についての事例研究	中小製造業	当該企業に関する資料や代表取締役に対する対面ならびに質問紙による調査
61	がんに対する一般市民の意識調査からのがん対策へのアプローチ	児玉耕太, 高本亮次, 牧野智弘, 他.	市民のがん治療に対する意識, 期待と不安, コスト意識等を調査カテゴリーとし, 多変量解析を行うことにより, 一般市民が持つがん, 及びがん治療に対する意識を明らかにする。	がん対策	ネットモニターによるWebアンケート調査
62	再生医療の実用化に関する技術特性と経済性の検討	児玉耕太, 佐藤芳樹, 仙石慎太郎	再生医療の実用化に関する技術特性と経済性の検討	再生医療の実用化に関する技術特性と経済性	文献の整理
63	顧客の感情と映画から得られる印象との関係性を考慮したレコメンデーションモデルの構築	塚田頼人, 臧魏, 熊谷敏	映画レビューより映画から得られる印象を評価し, 視聴者の内面的要因と映画の印象との関係性を考慮したレコメンデーションモデルを提案する。	顧客の感情と映画から得られる印象との関係性	アンケート調査結果の分析によるレコメンデーション
64	SNSを用いた映像コンテンツ推薦技術の開発 圧縮アルゴリズムを活用した特徴抽出の研究	米田智紀, 木村有寿, 松富達夫	ユーザー投稿型Webサービスに投稿された書き込みを取得し, 内容ベースフィルタリングによってドラマやアニメなどのストーリー性のあるジャンルに特化した番組推薦を行う手法を検討する。	SNSを用いた映像コンテンツ推薦技術	圧縮アルゴリズムを用いて, 話題分類を行い, 推薦すべき番組を決定
65	SaaS Virtualizationによる情報の連結が事業に与える有効性とその要素について	山口平八郎	クラウドコンピューティングを組み入れたエンドユーザー側の情報システムにおける事業への有効性とその要素について明らかにする。	SaaSによる情報の連結	アンケート調査による検証
66	時間枠付き多品目在庫運搬経路問題に対する列生成法	三村健斗, 森山弘海, 水野浩幸	時間枠付き多品目在庫運搬経路問題の近似解法を提案する。	時間枠付き多品目在庫運搬経路問題	近似解法を提案し, 数値実験で検証
67	国内86国立大学における中心的研究者と3つの枠組みの関係に関する一考察—共著関係の中心性に着目したネットワーク分析—	大和尚弥, 水上祐治	「国立大学の三分類」の成果を定量的に測定する最適な仕組み, 指標を提供する。	国立大学の中心研究者と「国立大学の三分類」の関係	論文収集し, Excelを用いた統計処理を施して, 論文間の繋がりデータを作成, さらにCytoscapeを用いて, 著者を介した論文間の繋がりを図式化
68	体感温度と不快指数がバス利用者に与える影響と利用者数予測	中根昇, 三木良雄	天候が人の行動に与える影響について明らかにするとともに機械学習的アプローチを排除した完全なモデル化を行うことを目的とする。	体感温度と不快指数がバス利用者にも与える影響	停留所毎乗客客数データを用いて提案モデルで分析
69	消費電力パターンからの作業項目認識に基づくムダ電力の検出	神谷知貴, 三木良雄	工場の製造機が無駄に電力を消費している作業の検出を行う。	無駄な消費電力	特徴量データを収集し, 工場の製造機の無駄に電力を消費している作業の検出及び無駄電力の見積もり方法を提示
70	居室熱慣性気象条件を考慮した階差積分法による居室の熱使用量推定モデル	井川奨, 臧魏, 熊谷敏	空調によって1日に居室内に投入する熱量を把握し, 前日の時点で翌日の総熱使用量を予測する方法を提案する。	居室の熱使用量	居室の熱使用量のデータを用いた重回帰分析

参考文献

- [1] 日本経営システム学会. 第 58 回日本経営システム学会  
全国研究発表大会講演論文集; 2017-5-27,28 (東京).  
2017; p.34-273.

## Research Trends of the Japan Association for Management Systems

HORIE Noriyuki

Department of Computer Science, Faculty of Health Sciences,  
Tsukuba University of Technology

**Abstract:** The purpose of this study was to uncover research trends of the Japan Association for Management Systems. Specifically, research purposes and approaches were analyzed. My findings are reported as research results.

**Keywords:** Japan Association for Management Systems, Research trend